

椎 名 誠 著

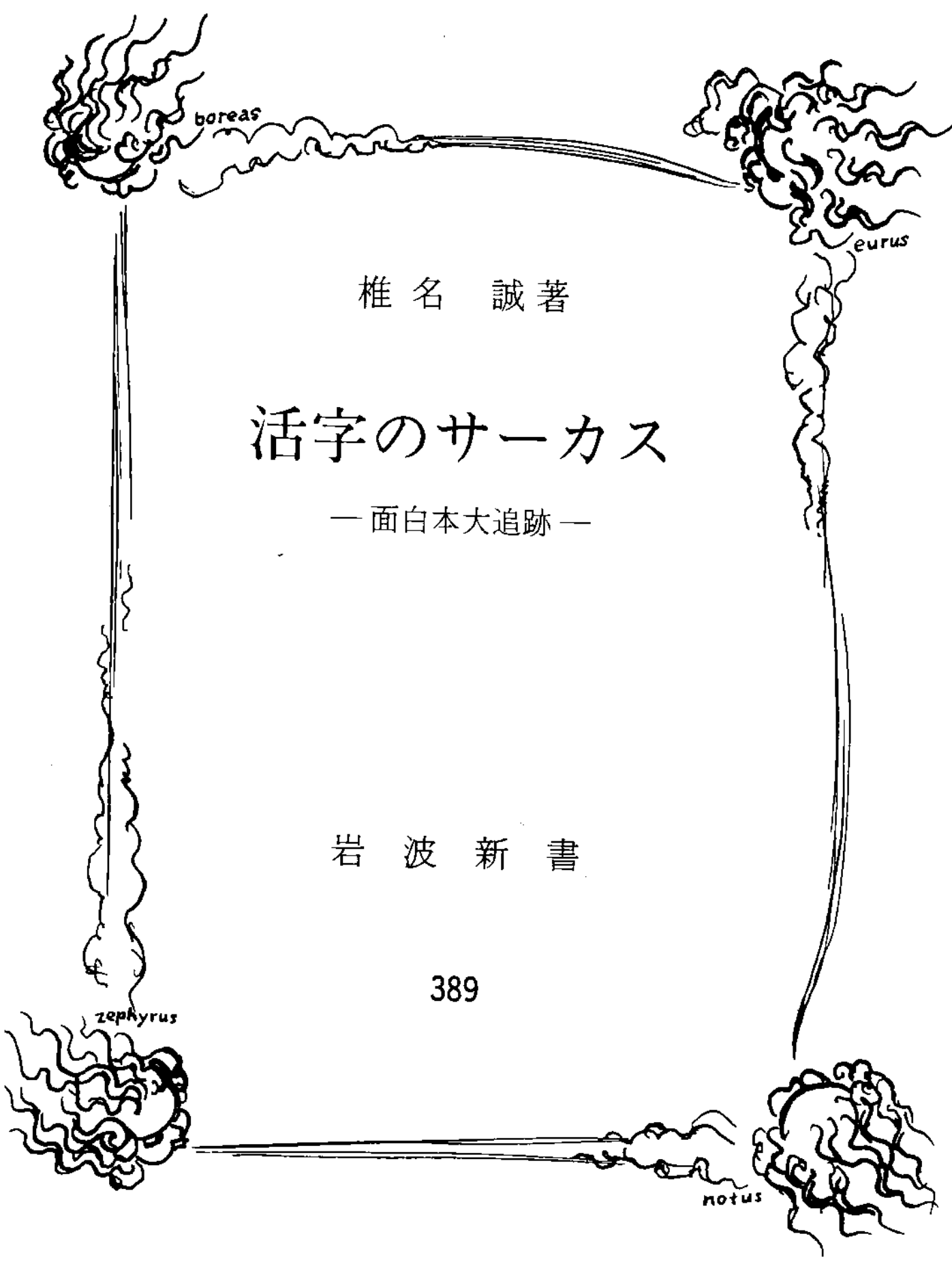
# 活字のサーカス

一面白本大追跡一



岩 波 新 書

389



椎 名 誠 著

# 活字のサーカス

— 面白本大追跡 —

岩 波 新 書

389

## 椎名 誠

1944 年東京に生まれる

現在一作家、書評誌『本の雑誌』編集長

著書—小説「ジョン万作の逃亡」(角川書店)  
「哀愁の町に霧が降るのだ」(上)(中)  
(下)(情報センター出版局)「蚊」(新潮社)  
「岳物語」「菜の花物語」(集英社)など  
旅行記「パタゴニア」「シベリア夢幻」  
(情報センター出版局)「インドでわしも考  
えた」「地球どこでも不思議旅」(小学  
館)「海を見にいく」(本の雑誌社)など

活字のサーカス

岩波新書(黄版) 389

1987 年 10 月 20 日 第 1 刷発行 ©

定価 480 円

著 者 しい 椎 な 名 まこと 誠

発 行 者 緑 川 亨

〒101 東京都千代田区一ツ橋 2-5-5  
発 行 所 株式 岩 波 書 店

電話 03-265-4111

振替 東京 6-26240

印刷・精興社 製本・田中製本

落丁本・乱丁本はお取替いたします

Printed in Japan  
ISBN4-00-420389-9

イラスト  
沢野ひとし

## 岩波新書新版の発足に際して

岩波新書の創刊は、一九三八年十一月であった。その前年、すでに日中戦争が開始され、日本軍部は中国大陆に侵攻し、国内もまた国粹主義による言論統制が日ましに厳しさを加えていた。新書創刊の志は、もとより、この時流に抗し、偽りなき現実認識、冷静な科学精神を普及し、世界的視野に立つ自主的判断の資を国民に提供することにあった。発刊の辞は、「今茲に現代人の現代的教養を目的として岩波新書を刊行する」とその意を述べている。一九四四年、苛烈な戦時下であって、岩波新書は刊行点数九八点をもって中絶のやむなきにいたり、越えて四六年、三点を発行したのを最後に赤版新書は終結した。

一九四五年八月、戦争は終わった。日本の民衆が、敗戦による厳しい現実を見据え、新たな民主主義社会を築き上げてゆくためには、自主的精神の確立こそ一層欠くべからざる要件であった。出版という営みを通じて学術と社会に尽すことを念願とした創業者の遺志を継承し、戦時下の岩波新書創刊の趣意を改めて戦後社会に発展させることを意図して、一九四九年四月、岩波新書は、装を新たにして再発足した。「現代人の現代的教養」という辞は、この青版新書において、以前にもまして積極的な意味を賦与された。幸いに博く読者に迎えられ、本年四月、ついに青版新書は刊行総点数一千点を数えるに至った。創刊以来四十年の歳月を通じて、多数の執筆者が協力を吝しまれず、広汎な層に及ぶ読者の支持を得た結果である。

戦後はすでに終焉を見た。一九七〇年代も半ばを経過し、われわれを圍繞する現実社会は混迷を深め、内外にかつて見ない激しい変動が相ついでいる。科学・技術の発展は、文明の意味を根本的に問い直すことを要請し、近代を形成してきた諸々の概念は新たな検討を迫られ、世界的規模を以て、時代転換の胎動は各方面に顕在化している。しかも、今日にみる価値観は、余りに多層的であり、多元的であるが故に、人類が長い歴史を通じて追究してきた共通の目標をすら見失わせようとしている。

この機において、岩波新書は、創刊以来の基本的方針を堅持しつつ、ここに、再び装いを改めて、新たな出発をはかる。二十世紀の残された年月に生き、さらに次の世紀への展望をきりひらく努力を惜しまぬ真摯な人々に伍して、現代に生きる文字通りの新書として、その機能を自らに課することを念願しつつ、この新たな歩みは始まる。

赤版・青版の時代を通じて、この叢書を買ってきたものは、批判的精神の持続であり、人間性に第一義をおく視座の設定であった。いま、新版の発足に当り、今日の状況下にあつてわれわれはその自覚を深め、人間の基本的権利の伸張、社会的平等と正義の実現、平和的社会の建設、国際的視野に立つ豊かな文化創造等、現代の人間が直面する諸課題に関わり、広く時代の要請に応えることを期する。読者諸賢の御支持を願ってやまない。(一九七七年五月)

随筆

|                   |          |
|-------------------|----------|
| 食品を見わける           | 磯部晶策     |
| スペイン断章            | 堀田善衛     |
| 女と自由と愛            | 松田道雄     |
| マンボウ雑学記           | 北杜夫      |
| ビーブス氏の<br>秘められた日記 | 白田昭      |
| 動物園の獣医さん          | 川崎泉      |
| エッファ塔ものがたり        | 倉田保雄     |
| 花火―火の芸術           | 小勝郷右     |
| 私の読書              | 「図書」編集部編 |
| 「ベトナム以後」を歩く       | 小田実      |
| 読書と社会科学           | 内田義彦     |
| 戦中用語集             | 三國一朗     |
| 現代焼酌考             | 稲垣真美     |
| 書斎の王様             | 「図書」編集部編 |
| 囲碁の世界             | 中山典之     |
| プロ野球審判の眼          | 島秀之助     |

◇

|           |       |
|-----------|-------|
| 一日一言      | 桑原武夫編 |
| エスプリとユーモア | 河盛好蔵  |
| 読書論       | 小泉信三  |
| 私の読書法     | 大内兵衛他 |
| 論文の書き方    | 清水幾太郎 |
| 知的生産の技術   | 梅棹忠夫  |
| 羊の歌       | 加藤周一  |
| 続羊の歌      | 加藤周一  |
| 南極越冬記     | 西堀栄三郎 |
| 世界の酒      | 坂口謹一郎 |
| 日本の酒      | 坂口謹一郎 |

赤版

|                    |                  |
|--------------------|------------------|
| 万葉秀歌上・下            | 斎藤茂吉             |
| 人生論                | 武者小路実篤           |
| ベートーヴェン            | 長谷川千秋            |
| 哲学入門               | 三木清              |
| 日本美の再発見<br>〔増補改訂版〕 | 篠田英雄訳            |
| 科学と宗教との闘争          | ホッウェイ<br>森島恒雄訳   |
| 零の発見               | 吉田洋一             |
| 物理学はいか上・下          | アインシュタイン<br>石原純訳 |
| に創られたか上・下          |                  |
| アラビアのロレンス<br>〔改訂版〕 | 中野好夫             |
| 禅と日本文化             | 鈴木大拙<br>北川桃雄訳    |

記録

|                     |                   |              |                |          |      |
|---------------------|-------------------|--------------|----------------|----------|------|
| ある盲学校教師の三十年         | 鈴木栄助              | 異邦人は君ヶ代丸に乗って | 金 賛 汀          | インドで暮らす  | 石田保昭 |
| メキシコからの手紙           | 黒沼ユリ子             | インド国民軍       | 丸山静雄           | ベトナム戦争   | 亀山 旭 |
| 北京三十五年 上・下          | 山本市朗              | 農民哀史から六十年    | 渋谷定輔           | モゴール族探検記 | 梅棹忠夫 |
| 軍政と受難<br>第四・韓国からの通信 | T・R 生<br>「世界」編集部編 | 光に向って咲け      | 栗津キヨ           |          |      |
| 口伝亜砒焼き谷             | 川原一之              | 子どもたちの太平洋戦争  | 山中 恒           |          |      |
| 指と耳で読む              | 本間一夫              | 戒厳令下チリ潜入記    | マルケス<br>後藤政子訳  |          |      |
| 徐兄弟獄中からの手紙          | 徐京植編訳             | 自由への大いなる歩み   | 雪山慶正訳          |          |      |
| 原爆に夫を奪われて           | 神田三亀男編            | ものいわぬ農民      | 大牟羅 良          |          |      |
| ビルマ敗戦行記             | 荒木 進              | 自分たちで生命を守った村 | 菊地武雄           |          |      |
| バナナと日本人             | 鶴見良行              | 戦没農民兵士の手紙    | 岩手県農村文化懇談会編    |          |      |
| 朝鮮人女工のうた            | 金 賛 汀             | あの人は帰ってこなかった | 菊池敬一編<br>大牟羅 良 |          |      |
| 転換期の中国              | 辻 康 吾             | 東京大空襲        | 早乙女勝元          |          |      |
| 尾瀬―山小屋三代の記          | 後 藤 允             | ヒロシマ・ノート     | 大江健三郎          |          |      |
| インパール作戦従軍記          | 丸山静雄              | 沖縄ノート        | 大江健三郎          |          |      |
| ひとりの戦争・広島           | 北畠宏泰編             | インドで考えたこと    | 堀田善衛           |          |      |
| モスクワ特派員報告           | 今井 博              |              |                |          |      |
| ヒバクシャ・イン・USA        | 春名幹男              |              |                |          |      |

文学

|           |       |              |        |       |
|-----------|-------|--------------|--------|-------|
| 詩への架橋     | 大岡 信  |              | 歌い来しかた | 近藤芳美  |
| 折々のうた     | 大岡 信  | ◇            | 古語雑談   | 佐竹昭広  |
| 万葉群像      | 北山茂夫  | 文学入門         |        | 桑原武夫  |
| 続折々のうた    | 大岡 信  | ギリシア神話       |        | 高津春繁  |
| 徒然草を読む    | 永積安明  | ギリシア悲劇入門     |        | 中村善也  |
| 第三折々のうた   | 大岡 信  | 新唐詩選         |        | 吉川幸次郎 |
| 中国の妖怪     | 中野美代子 | 新唐詩選続篇       |        | 三好達治  |
| 第四折々のうた   | 大岡 信  | 日本文学の古典〔第二版〕 |        | 吉川幸次郎 |
| 四谷怪談      | 廣末 保  | 古事記の世界       |        | 桑原武夫  |
| 人間喜劇の老嬢たち | 寺田 透  | 源氏物語         |        | 西郷信綱  |
| ドストエフスキー  | 江川 卓  | 紫式部          |        | 秋山 虔  |
| 江戸名物評判記案内 | 中野三敏  | 平家物語         |        | 清水好子  |
| 昭和青春読書私史  | 安田 武  | 日本の近代小説      |        | 石母田 正 |
| 色好みの構造    | 中村真一郎 | 日本の現代小説      |        | 中村光夫  |
| わが戦後俳句史   | 金子兜太  |              |        | 中村光夫  |
| 第五折々のうた   | 大岡 信  |              |        |       |
| 短編小説礼讃    | 阿部 昭  |              |        |       |



哲学・思想

哲学の現在

中村雄二郎

日本人の死生観上・下

加藤周  
矢野龍渓  
久野収  
マシフ  
久野収  
藤沢令夫  
日高六郎  
花崎皋平  
中村雄二郎  
山口昌男  
作田啓一  
清水正徳  
山口昌男  
松浪信三郎  
中村雄二郎

人間—過去・現在・未来  
上・下

久野収  
マシフ  
久野収  
藤沢令夫  
日高六郎  
花崎皋平  
中村雄二郎  
山口昌男  
作田啓一  
清水正徳  
山口昌男  
松浪信三郎  
中村雄二郎

ギリシア哲学と現代

藤沢令夫

戦後思想を考える

日高六郎

生きる場の哲学

花崎皋平

知の旅への誘い

中村雄二郎

個人主義の運命

山口昌男

働くことの意味

作田啓一

文化人類学への招待

清水正徳

死の思索

山口昌男

術語集

松浪信三郎

「文明論之概略」を読む  
上・中・下

丸山真男

われわれの哲学

小田実

ニーチェ

三島憲一

弁証法とは  
どういうものか

松村一人

実存主義

松浪信三郎

現象学

木田元

現代論理学入門

沢田允茂

ソクラテス

田中美知太郎

プラトン

斎藤忍随

デカルト

野田又夫

ルソー

桑原武夫編

ルネサンスの思想家たち

野田又夫

朱子学と陽明学

島田慶次

近代人の疎外

バツベンハイム

時 間

栗田賢三訳

権威と権力

滝浦静雄

日本の思想

なだいなだ

現代日本の思想

丸山真男

ある平和主義者の思想

久野収  
鶴見俊輔

ハ  
芝田進午編訳

宗教

ヨーロッパ歳時記

植田重雄

◇

仏教〔第二版〕

渡辺照宏

日本の仏教

渡辺照宏

死後の世界

渡辺照宏

お経の話

渡辺照宏

国家神道

村上重良

イエスとその時代

荒井 献

聖書入門

小塩 力

ユダヤの民と宗教

シイグフリード  
鈴木一郎訳

イスラーム(回教)

蒲生礼一

心理

|          |         |
|----------|---------|
| 知力の発達    | 波多野 誼余夫 |
| 子どもの心と発達 | 園 原 太 郎 |
| 乳幼児の世界   | 野 村 庄 吾 |
| 心とは何か    | 宮 城 音 弥 |
| 新・心理学入門  | 宮 城 音 弥 |
| 子どもとことば  | 岡 本 夏 木 |
| 人間年輪学入門  | 宮 城 音 弥 |
| 発達の心理学   | 藤 永 保   |
| 日本的自我    | 南 博     |
| 子どもの思考力  | 漢 沢 武 久 |
| ことばと発達   | 岡 本 夏 木 |
| 超能力の世界   | 宮 城 音 弥 |
| ◇        |         |
| 社会心理学入門  | 南 博     |
| 日本人の心理   | 南 博     |
| 感情の世界    | 島 崎 敏 樹 |
| 精神分析入門   | 宮 城 音 弥 |

夢 (第二版)

人間性の心理学

天 才

性 格

性格はいかに  
つくられるか

コンプレックス

愛と憎しみ

生きるとは何か

人間の限界

フロイトの方法

言語

日本語の文法を考える

言語学の誕生

日本語と女

英語の構造 上・下

日本語はどう変わるか

ことばと国家

翻訳語成立事情

漢字の過去と未来

宮 城 音 弥

宮 城 音 弥

宮 城 音 弥

宮 城 音 弥

詫 摩 武 俊

河 合 隼 雄

宮 城 音 弥

島 崎 敏 樹

霜 山 徳 爾

牧 康 夫

大 野 晋

風 間 喜 代 三

寿 岳 章 子

中 島 文 雄

樺 島 忠 夫

田 中 克 彦

柳 父 章

藤 堂 明 保

外国人との  
コミュニケーション

記号論への招待

現代ヨーロッパの言語

日本語のなかの外国語

外国語上達法

ことばとイメージ

◇

日本語をさかのぼる

日 本 語

か な

ことばと文化

言語と社会

日本の方言

外国語の学び方

ことばとところ

ネウストブニー

池 上 嘉 彦

田 中 克 彦

ハールマン

石 綿 敏 雄

千 野 栄 一

川 本 茂 雄

大 野 晋

金 田 一 春 彦

小 松 茂 美

鈴 木 孝 夫

トラッドギル

土 田 滋 訳

柴 田 武

渡 辺 照 宏

川 本 茂 雄

# 教育

|                   |                   |
|-------------------|-------------------|
| 教育とは何かを問い<br>つづけて | 大田 堯              |
| 学力とは何か            | 中内 敏夫             |
| スコット<br>ランドの小さな学校 | 野村 庄吾             |
| 中学教師              | 太田 昭臣             |
| 戦後教育を考える          | 稲垣 忠彦             |
| 知力と学力             | 波多野 誼余夫<br>稲垣 佳世子 |
| わが体験的教育論          | 中野 孝次             |
| コンピュータと教育         | 佐伯 胖              |
| 自民党と教育政策          | 山崎 政人             |
| 日本教育小史            | 山住 正己             |
| ◇                 |                   |
| 子どものものの考え方        | 波多野 完治<br>滝沢 武久   |
| 子どもの認識と感情         | 波多野 完治            |
| 日本の学校             | 勝田 守夫<br>中内 敏夫    |
| 国民の教育権            | 兼子 仁              |

## 子どもの図書館

|                 |               |
|-----------------|---------------|
| 私は赤ちゃん          | 石井 桃子         |
| 私は二歳            | 松田 道雄         |
| 自由を子どもに         | 松田 道雄         |
| おやじ対子ども         | 松田 道雄         |
| 母親のための人生論       | 松田 道雄         |
| 自由と規律           | 池田 道雄         |
| 子どものモスクワ        | 松田 道雄         |
| 胎児の環境としての<br>母体 | 松田 道雄         |
| 日本の耳            | 荒井 良          |
| J・S・パッハ         | 小倉 朗          |
| モーツァルトを聴く       | 辻 莊一          |
| 楽譜の風景           | 海老沢 敏         |
| 橋と日本人           | 岩城 宏之         |
| グスタフ・マーラー       | 上田 篤          |
| フルトヴェングラー       | 柴田 南雄         |
| 抽象絵画への招待        | 芦津 圭平<br>大岡 信 |

## 女性画家列伝

|          |         |
|----------|---------|
| 歌右衛門の六十年 | 若桑 みどり  |
| ワグネル     | 中村 歌右衛門 |
| 岸田 劉生    | 山川 静夫   |
| 美の近代     | 高辻 知義   |
| 音楽の現代史   | 富山 秀男   |
|          | 栗津 則雄   |
|          | 諸井 誠    |

◇

|            |                |
|------------|----------------|
| 芸術とは何か     | ランガ<br>池上・矢野 訳 |
| 音楽の基礎      | 芥川 也寸志         |
| ギリシアの美術    | 澤柳 大五郎         |
| 秘境のキリスト教美術 | 柳 宗玄           |
| 名画を見る眼     | 高階 秀爾          |
| 続名画を見る眼    | 高階 秀爾          |
| 陶磁の道       | 三上 次男          |
| うるしの話      | 松田 権六          |
| 日本人とすまい    | 上田 篤           |
| 版画         | 小野 忠重          |

世界史

ヒンドゥー教と

イスラム教

イギリスとアジア

西部開拓史

ペスト大流行

コンスタンティノール千年

フットの社会史

中国近現代史

文化大革命と現代中国

◇

歴史とは何か

歴史の進歩とはなにか

世界史概観 上・下

世界の歩み 上・下

インド文明の曙

荒松雄

加藤祐三

猿谷要

村上陽一郎

渡辺金一

マギー・忍足欣四郎 訳

小島晋治  
丸山幸治

安藤正士・太田勝弘・辻康吾

清水幾太郎 訳

市井三郎

ウエルズ  
長谷部・阿部 訳

林健太郎

辻直四郎

ヨーロッパとは何か

スパルタとアテネ

十字軍

風土と歴史

魔女狩り

フランス革命 上・下

フランス革命小史

ナポレオン

レーニンとロシア革命

第二次世界大戦前夜

第二次世界大戦下のヨーロッパ

インドとイギリス

中国

中国の歴史 上・中・下

孔子

諸子百家

漢の武帝

ジンギスカン

増田四郎

太田秀通

橋口倫介

飯沼二郎

森島恒雄

ソブール  
小場瀬・渡辺 訳

河野健二

井上幸治

岡田稔 訳

笹本駿二

笹本駿二

吉岡昭彦

ラティモア  
平野義太郎 監修  
小川修 訳

貝塚茂樹

貝塚茂樹

貝塚茂樹

吉川幸次郎

小林高四郎

朝鮮

インカ帝国

アメリカ人民の歴史 上・下

アメリカ黒人の歴史

金達寿

泉靖一

ヒューバーマン  
小林・雪山 訳

本田創造

日本史

世界史のな明治維新

壬申の内乱

茶の文化史

神の民俗誌

ある被差別部落の歴史

寺社勢力

日本中世の民衆像

徴兵制

自由民権

日本の私鉄

道頓堀裁判

満鉄

日本文化史〔第二版〕

一 揆

日本旧石器時代

木簡が語る日本の古代

G H Q

近代日本の民間学

日本の国鉄

靖国神社

田中正造

内村鑑三

国防婦人会

日中戦争

高杉晋作と奇兵隊

文明開化

江戸の旅

◇

日本の歴史上・中・下

日本神話

古墳の話

日本国家の起源

萬葉の時代

大化の改新

奈良

京都

鹿野政直

原田勝正

大江志乃夫

由井正臣

鈴木範久

藤井忠俊

古屋哲夫

田中 彰

飛鳥井雅道

今野信雄

織田信長

江戸時代

吉田松陰

福沢諭吉

明治の舞台裏〔第二版〕

明治維新と現代

日清戦争

日韓併合小史

昭和史〔新版〕

昭和時代

近衛文麿

太平洋戦争陸戦概史

太平洋海戦史〔改訂版〕

鈴木良一

北島正元

奈良木辰也

小泉信三

石井 孝

遠山茂樹

藤村道生

山辺健太郎

遠山茂樹・今井清一・藤原 彰

中島健蔵

岡 義武

林 三郎

高木惣吉

自然科学 I

|                   |                |
|-------------------|----------------|
| 認識とパターン           | 渡辺 慧           |
| 相対性理論入門           | 内山 龍雄          |
| 物理学とは何だろうか<br>上・下 | 朝永振一郎          |
| 分子と宇宙             | 木原 太郎          |
| 接着とは<br>どういうことか   | 井本 稔<br>黄 慶    |
| 素粒子の世界            | 鈴木 眞彦<br>釜江 常好 |
| プルトニウムの恐怖         | 高木仁三郎          |
| 計算機歴史物語           | 内山 昭           |
| 地震と建築             | 大崎 順彦          |
| 宝石は語る             | 砂川 一郎          |
| 科学の哲学             | 柳瀬 睦男          |
| 人間生活とエネルギー        | 押田 勇雄          |
| 雪と氷の世界から          | 樋口 敬二          |
| 変動する日本列島          | 藤田 和夫          |
| 無限と連続             | 遠山 啓           |

数学入門 上・下

遠山 啓

数学の学び方・教え方

遠山 啓

新しい数学

矢野健太郎

宇宙と星

畑中武夫

地球の歴史〔第二版〕

井尻正雄

新しい地球観

上田 誠也

日本列島〔第三版〕

湊 正雄

日本の自然

中野 尊正

化学入門

原 光雄

色彩論〔改訂版〕

稲村 耕雄

日本の地形

貝塚 爽平

日本人と近代科学

渡辺 正雄

自然科学 II

彗星の話

富田弘一郎

ニュートン

島尾 永康

星の古記録

斉藤 国治

◇

科学の方法

中谷 宇吉郎

ガリレオ・ガリレイ

青木 靖三

進化論の歴史

八杉 竜一

近代科学の歩み

菅井 準一

バターフィールド  
プラッゲ  
他訳

然科学 III

|           |       |
|-----------|-------|
| ツと健康      | 石河利寛  |
| 菌の話       | 光岡知足  |
| 探る(第二版)   | 江上不二夫 |
| 生         | 栗原康   |
| 不安の病      | 砂原茂一  |
| ウイルス      | 笠原嘉   |
| 動物の体は     | 畑中正一  |
| 分子遺伝学     | 岡田節人  |
| 人間の生と性    | 石川辰夫  |
| 作物改良に     | 近藤四郎  |
| 母乳        | 山口彦之  |
| 医者と患者と病院と | 山本高治郎 |
| ミツバチの世界   | 砂原茂一  |
| 森の不思議     | 坂上昭一  |
| DNAと遺伝情報  | 神山恵三  |
| 俳風動物記     | 三浦謹一郎 |
|           | 宮地伝三郎 |

|              |                     |
|--------------|---------------------|
| イワナの謎を追う     | 石城謙吉                |
| アレルギーの話      | 矢田純一                |
| 新生児          | 山内逸郎                |
| 性の源をさぐる      | 樋渡宏一                |
| ガン遺伝子を追う     | 高野利也                |
| ゴマの来た道       | 小林貞作                |
| 花と木の文化史      | 中尾佐助                |
| サケーつくる漁業への挑戦 | 佐藤重勝                |
| ◇            |                     |
| 生命とは何か       | シュレーディングガー<br>岡・鎮目訳 |
| 生命の起源と生化学    | オパーリン<br>江上不二夫編     |
| 有限の生態学       | 栗原康                 |
| 動物と太陽コンパス    | 桑原万寿太郎              |
| アユの話         | 宮地伝三郎               |
| サルの話         | 宮地伝三郎               |
| ゴリラとピグミーの森   | 伊谷純一郎               |
| 栽培植物と農耕の起源   | 中尾佐助                |
| 人間はどこまで動物か   | ホルトマン<br>高木正孝訳      |

|             |       |
|-------------|-------|
| 日本人の骨       | 鈴木尚   |
| 化石サルから日本人まで | 鈴木尚   |
| 人間であること     | 時実利彦  |
| 脳の話         | 時実利彦  |
| 記憶のメカニズム    | 高木貞敬  |
| からだと食物      | 吉川春寿  |
| スポーツとからだ    | 石河利寛  |
| 血液型の話       | 古畑種基  |
| 歯の話         | 藤田恒太郎 |
| 薬その安全性      | 砂原茂一  |

# 目次



|                     |     |
|---------------------|-----|
| カバンの底の黄金本           | 1   |
| 蛭 <sup>ひる</sup> 的問題 | 14  |
| オトコの夢               | 28  |
| 明るいインド              | 41  |
| 隣りの狂気               | 54  |
| 水の中の静かなひとびと         | 69  |
| ドロリ目談議              | 83  |
| とらわれの身の小さな窓         | 96  |
| 知の天動説               | 110 |

